

## 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 第二期中期目標期間業務実績評価(案)〈概要〉について

- 第二期中期目標期間業務実績評価 (案)
  - (1) 項目別評価 (概要)
  - (2) 全体評価
  - (3) 項目別の主な業務実績・評価
  - (4) 課題・法人への要望

# 健康長寿医療センター—第二期中期目標期間業務実績評価（案）

## （１）項目別評価（概要）

〈評価結果5段階〉

評定	中期目標 期間評価	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度
S(目標の達成状況が極めて良好)	2	1	1	2	1	1
A(目標の達成状況が良好)	8	9	9	10	10	9
B(目標の達成状況が概ね良好)	10	10	10	8	9	10
C(目標の達成状況がやや不十分)	0	0	0	0	0	0
D(組織、業務等に見直しが必要)	0	0	0	0	0	0
項目数計	20	20	20	20	20	20



平成25年6月新施設に移転

## ○部門別の主な項目別評価

### 【病院部門】

- ・ 三つの重点医療（血管病医療、高齢者がん医療、認知症医療）〈評定：A〉
- ・ 急性期医療の取組〈評定：A〉
- ・ 救急医療の充実〈評定：S〉

### 【研究部門】

- ・ トランスレーショナルリサーチの推進〈評定：A〉
- ・ 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究〈評定：A〉
- ・ 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮〈評定：S〉

### 【経営部門】

- ・ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化〈評定：A〉
- ・ 収入の確保〈評定：A〉

### 第二期中期目標期間において、概ね着実な業務の達成状況にある

#### 「高く評価すべき事項」

- ・ 3つの重点医療（血管病、高齢者がん、認知症）について、難易度の高い鑑別診断や低侵襲な治療を提供
- ・ 救急患者を積極的に受け入れ、24時間365日、都民が安心できる救急医療を提供
- ・ 病院と研究所を一体的に運営する法人の特徴を生かした研究などを進め、機序解明や臨床応用に結びつく成果
- ・ 糖鎖異常症に係る研究に関し日本学士院賞を受賞、難病の根本的な治療開発への活用が期待される高い成果

#### 「改善・充実を求める事項」

- ・ 更なる地域連携の強化、研究成果の普及・還元、内部統制の強化に向けた体制の整備・取組の充実、収支改善への取組に期待

#### 病院部門について

#### <優れた点> 3つの重点医療

法人は設立以来、高齢者の死亡・要介護の主要な原因である血管病、高齢者がん及び認知症を重点医療と位置付けており、第二期中期目標では、3つの重点医療の体制強化、適切な医療の提供を行うことを求めている。

#### ○ 血管病医療

- ・ハイブリッド手術室(※)を活用し、体への負担の少ない低侵襲かつ効果的な治療を提供  
※レントゲン透視機器を備えた手術室。外科手術とカテーテル治療を同時に行うことが可能
- ・経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)をはじめとした高度かつ多様な治療を提供する体制を整備

#### ○ 高齢者がん医療

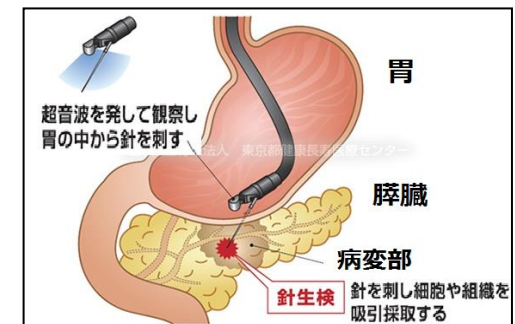
- ・コンベックス内視鏡下穿刺術(EUS-FNA)などの低侵襲な鑑別診断や、内視鏡下粘膜下層剥離術(ESD)などの低侵襲な治療を積極的に実施
- ・緩和ケア病棟の新設、がん相談支援センターの設置など患者・家族が安心して療養生活を営む環境を整備

#### ○ 認知症医療

- ・MRI、SPECT、PET等検査の着実な実施やMRI画像の解析結果とSPECT、PETの機能画像との比較検討などによる、早期診断の推進及び診断精度の向上
- ・認知症支援推進センターとして認知症ケアに従事する医療専門職等を対象とする研修を実施するなど、地域における認知症医療の向上に貢献



ハイブリッド手術室



コンベックス内視鏡下穿刺術

⇒ 最新の機器や高度な技術の導入など重点医療を提供する体制を強化するとともに、  
難易度の高い鑑別診断や低侵襲な治療の提供に努めたことは高く評価できる。

### (3) 項目別の主な業務実績・評価

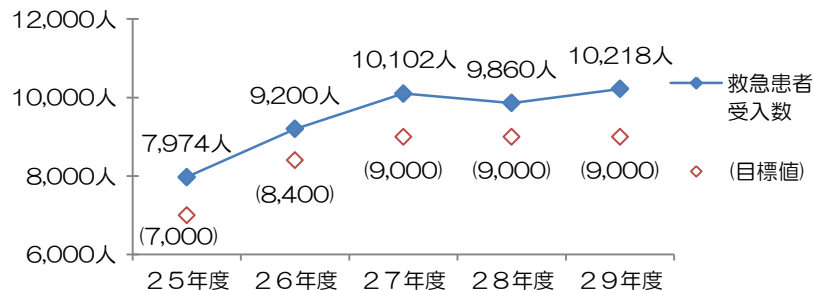
#### <優れた点> 救急医療の充実

高齢者が増加していく中、二次救急医療機関として法人が果たす役割はますます大きくなる。

第二期中期目標では、救急患者受入体制の強化、救急医療に関する都施策の推進への貢献を求めている。

- ・救急診療体制の強化、救急に関わる職員の育成、地域の医療機関との連携体制の構築などの取組により、「断らない救急」を実践
- ・二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センター(※)として、救急患者を積極的に受入れ

※救急隊の医療機関選定において搬送先が決定しない場合に、地域内の救急医療機関の連携体制を基盤として、受入先の調整を行う医療機関。都内の医療圏域ごとに東京都が整備



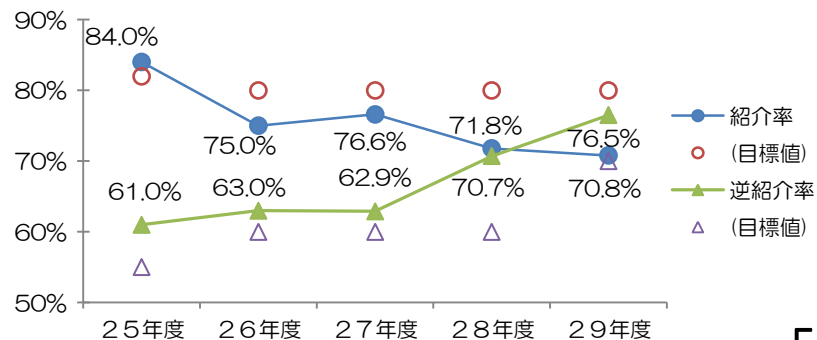
⇒ 救急診療体制の充実に継続的に取り組み、重症度の高い患者も含め、救急患者を積極的に受け入れ、24時間365日、都民が安心できる救急医療を提供したことは大いに評価できる。

#### <更なる充実が期待される点> 地域連携の推進

第二期中期目標では、地域の医療機関との連携による疾病の早期発見・早期治療や高齢者が地域の中で安心して生活を営むための環境づくりへの貢献を求めている。

- ・連携医療機関や連携医を着実に増やすなど、地域連携を強化

⇒ 今後も、急性期病院としての役割をより果たすため、紹介率及び逆紹介率の向上を目指すなど、更なる地域連携の強化に取り組むことを期待する。



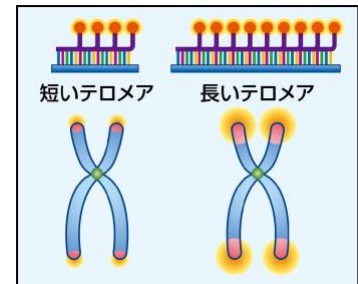
#### 研究部門について

#### <優れた点> 自然科学系研究

第二期中期目標では、老化メカニズムの研究や高齢者に特有の疾患に関する研究などに取り組み、特に、病院と研究所とが一体化した法人であるメリットを生かした研究成果を臨床応用につなげる取組の推進を求めている。

#### ○ トランスレーショナルリサーチの推進(医療と研究の連携)

- これまで悪性度判定が困難であった症例に対して、染色体のテロメア長測定技術を利用し判定する「膵臓がん悪性度診断法」を確立(※)し、臨床現場において活用  
※テロメアとは、染色体の末端にある部分。テロメアの長さとの間には相関関係がある。
- 高齢者の夜間頻尿を皮膚刺激によって制御する「過活動膀胱抑制器具」を開発・製品化、病院部門と共同で皮膚刺激方法についての効果的プログラムを作成

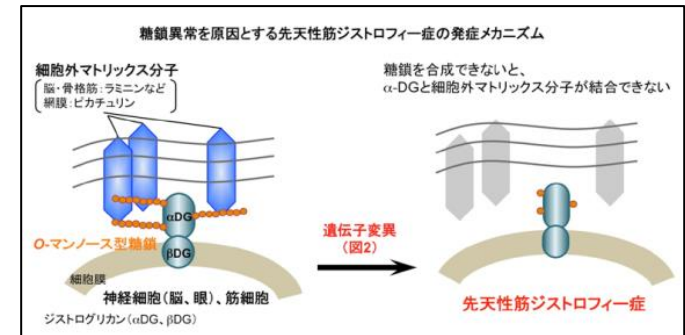


#### ○ 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究

- 乳がんホルモン療法に係る新たな判定基準を確立し、「乳がん診療ガイドライン」に掲載
- 病理診断と同等の診断精度を有する「アミロイドイメージング読影法」を確立、認知症の早期診断法の標準化が可能に

#### ○ 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮

- 指定難病である筋ジストロフィー症の発症に関わる糖鎖構造を解明、ISPD遺伝子変異型の筋ジストロフィー症に対し、薬物治療の可能性を示す成果糖鎖合成異常症に係る一連の研究成果に関し日本学士院賞を受賞



糖鎖構造に関する研究

⇒ 機序解明や臨床応用につながる研究成果を上げていることは高く評価できる。

中でも、福山型筋ジストロフィー症を含めた糖鎖異常症に係る研究成果に関し日本学士院賞を受賞するなど、難病の根本的な治療開発への寄与が期待される高い成果を上げたことは大いに評価できる。



### (3) 項目別の主な業務実績・評価

#### <特色ある点> 社会科学系研究

第二期中期目標では、高齢者の社会参加に関する研究や高齢者の虚弱化の予防に資する地域の取組に関する研究を推進し、高齢者が孤立することなく、地域で安心して生活するための環境づくりに貢献することを求めている。

- ・認知症の疑いを家庭で簡単に確認できる「自記式認知症チェックリスト」を開発、都が作成した普及啓発用のパンフレットに掲載
- ・海馬萎縮(※)の抑制効果が見られた、絵本の読み聞かせを通じた世代間交流プロジェクトを普及し、広く社会に還元  
※海馬とは、認知機能を司っていると考えられる脳部位。認知症患者では特異的に萎縮が認められる。
- ・介護予防に取り組む市区町村を支援する介護予防推進支援センターを開設するとともに、「認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」を実施するなど都施策に貢献



絵本の読み聞かせを活用した  
世代間交流に関する研究

#### <更なる充実が期待される点> 研究成果・知的財産の活用

第二期中期目標では、研究所の取組・成果を積極的に公表し、都などの施策に貢献することにより、公的な機関としての研究所の存在意義を一層高めていくことを求めている。

- ・法人において長年積み重ねてきた健康長寿に関する疫学研究成果を中心に「健康長寿新ガイドライン」を策定・発表
- ・老年学公開講座などの各種講演会を開催するとともに、国や都の審議会等に委員として職員が参加するなど、研究成果を普及・還元

⇒ 今後も、都の高齢者医療・研究の拠点として、都施策との連携を図りながら、更なる研究成果の普及や社会還元に努めてほしい。



健康長寿新ガイドライン

### (3) 項目別の主な業務実績・評価

#### 経営部門について

#### <優れた点> 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化、収入の確保

第二期中期目標では、地方独立行政法人のメリットを生かし、より効果的・効率的な業務の運営に取り組むとともに、財務内容改善のため収入確保の取組を行うことなどを求めている。

#### ○ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化

- ・診療情報の分析や経営戦略の検討を行う医療戦略室を新たに設置し、新たな施設基準の取得による効果検証を行うなど、効果的・効率的な業務を推進

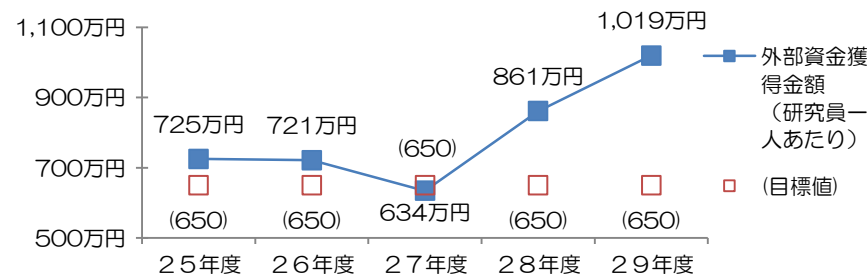
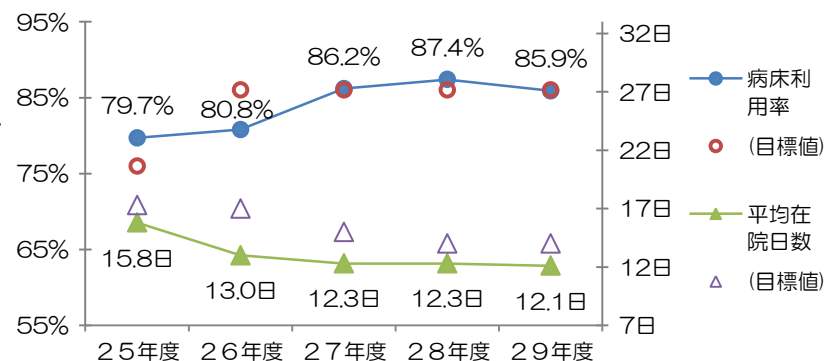
- ・職員の自己啓発や創意工夫する職員風土の醸成等を目的として職員提案制度を新設するとともに、同制度の受賞提案(※)を患者サービスの向上や経営改善に活用

※一例:最優秀賞に選ばれた「経口摂取開始のためのチャート」を全病棟で運用し、患者の早期回復や重症化予防につながるなどの効果

#### ○ 収入の確保

- ・地域の連携医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入れ、適切な退院支援の実施により、平均在院日数の短縮を図りながら新入院患者の確保に努め、病床利用率を向上

- ・共同研究や受託事業など外部研究資金を積極的に獲得



⇒ 機動的な経営判断や弾力的な人員配置などが可能である地方独立行政法人の特性を生かし、効果的・効率的な業務を推進するとともに、病院としての収入確保に向けた取組の確実な実施、研究所としての積極的な外部研究資金の獲得など、収入の確保に努めたことは高く評価できる。



### (3) 項目別の主な業務実績・評価

#### <更なる充実が期待される点> 内部統制の強化に向けた体制の整備・取組の充実、収支改善への取組

第二期中期目標では、内部統制の仕組みの充実を図るなど適切な法人運営を行うための体制の強化を行うことを求めている。また、自律的な法人運営となる安定した経営基盤を確立するため、収入の確保及びコスト管理の体制強化に取り組み、財務内容の改善を図ることを求めている。

#### ○ 収入の確保

- ・地域の連携医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入れ、適切な退院支援の実施により、平均在院日数の短縮を図りながら新入院患者の確保に努め、病床利用率を向上(再掲)
- ・共同研究や受託事業など外部研究資金を積極的に獲得(再掲)

#### ○ コスト管理体制の強化

- ・原価計算システム、診療材料の納入価格のベンチマークシステムを導入、後発医薬品の採用推進、材料管理の効率化等の取組

⇒ 適正な業務の確保を目的として、平成30年4月1日に改正地方独立行政法人法が施行された。

法改正の趣旨を踏まえ、更なる内部統制の強化に向けて、体制の整備や取組の充実に努めてほしい。

⇒ 新設した医療戦略室における経営分析等を積極的に活用し、収支改善に向けた更なる取組を行ってほしい。

### (4) 課題・法人への要望

第三期中期目標においては、都における高齢者医療・研究の拠点として、その成果の普及・還元を強力で推進するとともに、医療・研究で培った知見を踏まえ、高齢者の医療と介護を支える人材の育成を一層推進することが求められる。

これまで培った技術・知見、病院と研究所が一体化した法人である強みを生かし、高齢者が安心して暮らし続けることができる大都市東京にふさわしい地域包括ケアシステムの構築に寄与するとともに、業務を確実に遂行するため、法人の経営基盤をより一層強化することを望む。